

地域ねこ活動を殺処分ゼロへ繋げるには

【地域ねこ】の定義づけ

行政がいう【地域ねこの定義】に必ず挙げられるのが《地域の合意》

地域の合意が得られればそれに越したことはないし、私たちも合意を得たい。

しかしながら、日本の地域社会には、家猫の飼い方をはじめ、その土壌ができていない。地域社会に『自分たちの地域の問題は地域で解決して行こう』という意識形成がなされていない状況下で合意を得よというのが土台無理です。だから、こんなに増えてしまっているのです。爆発的に増えてしまってから大騒ぎになる。そして、餌やりするから殖えた・・・となる。何故2~3頭の時に地域の誰かが「増えたら困る」と声を上げなかったのでしょうか？合意の土壌が形成されていないのをわかっていて《合意》に拘るのは、地域猫への取り組みにブレーキをかけているのと同じです。

定義通り合意を得るまで待っている間に猫はどんどん繁殖してしまいます。

現場を知る者なら誰しもわかっていることです。

地域ねこ対策が広まらない大きな障害が“餌やり禁止”の考え方です。

一度じっくり考えたいものです。

餌やりを禁止して、いまそこに居る猫たちにどうなって欲しいのでしょうか？

- ・近隣地域へ追い払えばそれで解決するのでしょうか？
- ・それとも、飢餓に追い込んで死なせたいのでしょうか？

それより、なぜ増える前に地域として何かできなかつたかをみんなで考えたい。

当たり前のように『餌やりするな』が言われていますが、ここいら辺で一度じっくり考えませんか？人を責める前に自分たちは何をすべきだったか？何故できなかつたか？を考えたいものです。

糞の問題をはじめ猫による迷惑を言われる人も多い。だから、これ以上増えたら困るのでは？と考えられないのでしょうか？何より、もっと早くに繁殖制限に取り組むべきだったとは考えないのでしょうか？迷惑だから自分の地域からは追い払いたい？それで本当に問題解決になりますか？

日本の地域社会はまだまだ熟成にはほど遠い。誰かのせいにするのではなく地域の問題と捉えられるような地域社会づくりが先決です。長くこの活動をしてきてつくづく思うことです。

地域猫への取り組みが進み、繁殖制限手術を施した猫たちが地域内で怯えることなく穏やかに生涯を全うできる地域社会になるのはいつ日か？気が遠くなるようですが、やればできることは間違いありません。健全なる官民協働体制を整えばできます。

地域の全ての飼い主のいない猫と家猫に繁殖制限手術を施して、外猫のお世話は、ルールに沿って、猫の好きな人、餌やりさんをお願いすればいいのです。お世話係のひとに「お疲れさん！」と声掛けできるような地域にしていきたいものです。そうすればやがて、猫嫌いの人にも喜ばれる猫のいない地域になるはずです。